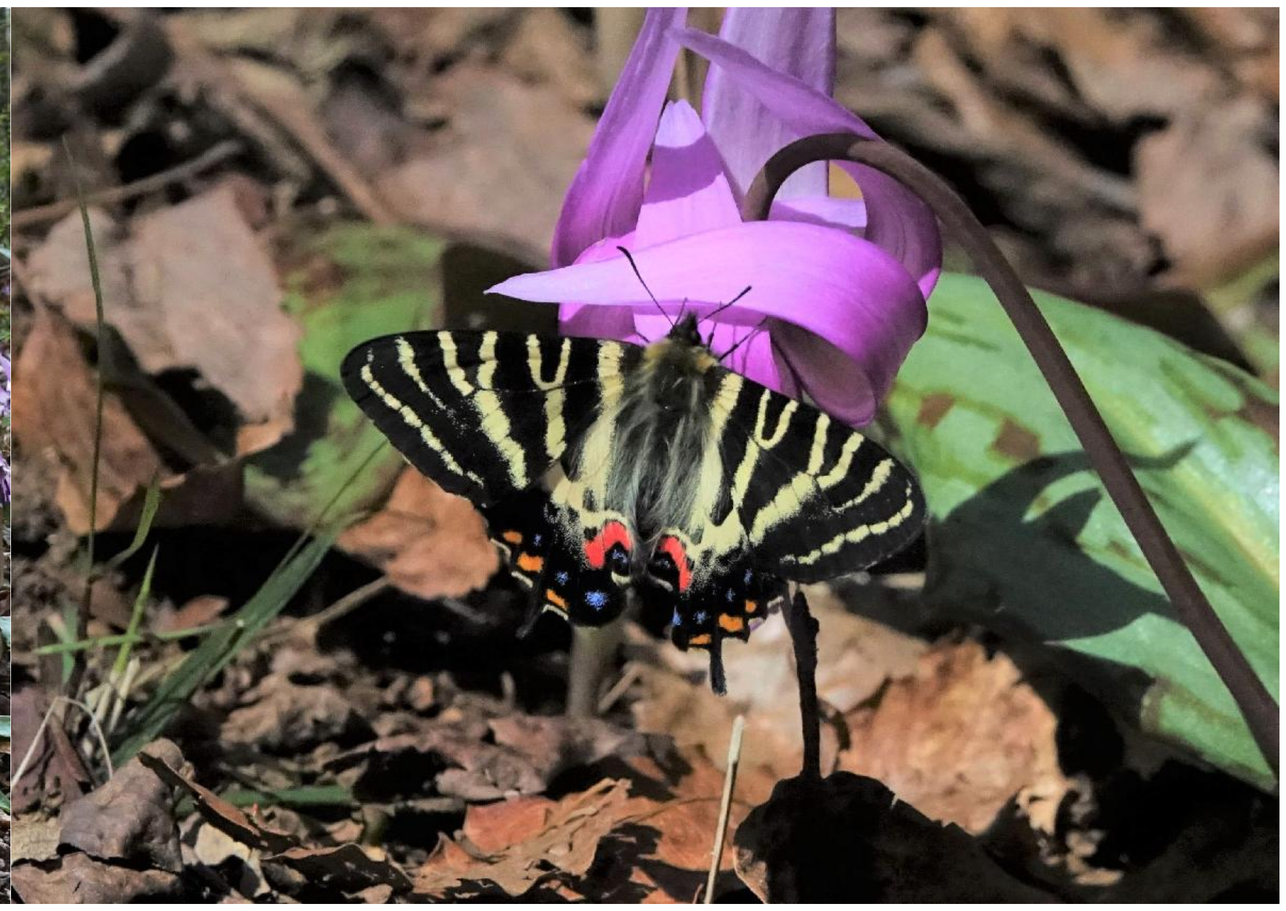
西山自然保護ネットワーク



カタクリ

京都府絶滅危惧種
(京都府レッドデータブック2022年改訂)

ユリ科カタクリ属の多年草。雑木林の林床に群生し、早春に開花します。種が発芽してから花をつけるまで8年ほどを要しますが、一旦開花すると、ほぼ毎年開花します。氷河期からの生き残りといわれ、冷涼な環境を好むため関西では比較的標高が高い場所に遺存しています。

小塩山では、薪炭林の下草として長年人の営みとともに生き、山頂付近で4月初め頃に開花します。しかし、いまや役目を終えた薪炭林は暗い場所になり、さらに、シカ・イノシシの食害が急増して、カタクリの棲息が脅かされているのが現状です。

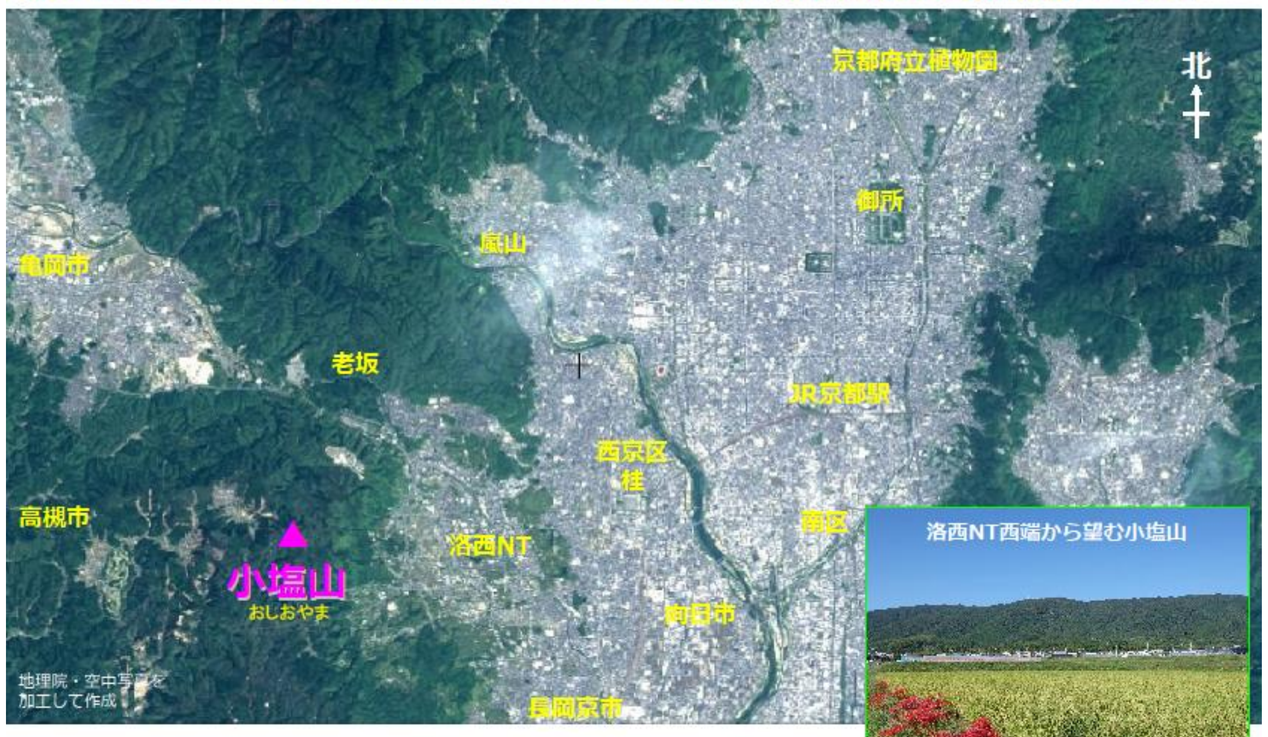
ギフチョウ

環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)
京都府絶滅危惧種(2015)
京都府登録天然記念物(1984-府下採集禁止)
京都府指定希少野生生物(2023)

本州の里山-落葉広葉樹林-に棲むアゲハチョウの仲間で、翅を拡げた大きさは5～6cmほど。全国的に激減していますが、小塩山では4月の晴れた日に見られます。

ギフチョウの棲息には、カタクリやスミレといった蜜源に加え、産卵場所で、幼虫の食草であるミヤコアオイの存在が必須です。小塩山ではこれら林床植物を保護する取り組みによって、個体数が回復しています。京都府南部でギフチョウがカタクリで吸蜜する姿を見られる場所は、いまや小塩山だけといわれています。

小塩山とは…洛西ニュータウンの西にある標高642mの「里山」



●京都市の西南端、西京区大原野　●山頂に淳和天皇陵とアンテナ群
●カタクリが自生し、ギフチョウが棲息　●山頂まで府道141号（一般車両通行止）

西山自然保護ネットワークとは

●京都市の南西端、西京区大原野の小塩山(おしおやま)山頂付近で、「カタクリ」と「ギフチョウ」の保護に取り組む、ゆるやかなボランティア団体(任意団体)。
●1999年設立。会員数約450名(義務は年会費500円の支払いのみ) 。
●ボランティア作業への参加は自由で、作業参加するアクティブ会員は男女80名ほど。
●自然が好き、山野草が好き、山歩きが好き、蝶が好き、野生の生き物が好き、山の空気を吸いたい・・・と会員の興味はさまざま。京都府外からの参加も多数。

西山自然保護ネットワーク：取り組みの3本柱

●里山を手入れします。

カタクリ、ギフチョウは、かつて薪炭林として利用、整備されてきた里山に棲む生き物です。里山は燃料や肥料供給の役割を終え、いまや放置されて常緑樹が繁る暗い山へと変化しました。この山を元の明るい薪炭林の環境、すなわちクヌギ、コナラ等の落葉広葉樹林に戻し、笹刈りなども行います。

●獣害から守ります。

近年シカやイノシシが急増し、京都府下でも各地で里山の下草が食べつくされる事態となっています。当会では、早い時期から、自力でカタクリの自生地を総延長1,840mの防獣ネットで囲い、野生動物の食害から守ってきました。防獣ネットの維持、補修、侵入防止対策にも大きなエネルギーを使っています。

●保護地を一般公開します。

カタクリが咲き、ギフチョウが舞う4月は、3か所の防獣ネット内を一般に公開します。毎年多くの皆さんが訪れ、里山の花々やチョウを楽しみます。

ボランティアは説明や誘導にあたり、自身も早春の里山を満喫しながら、保護の輪を広げます。

作業風景あれこれ

↑秋 ↓冬

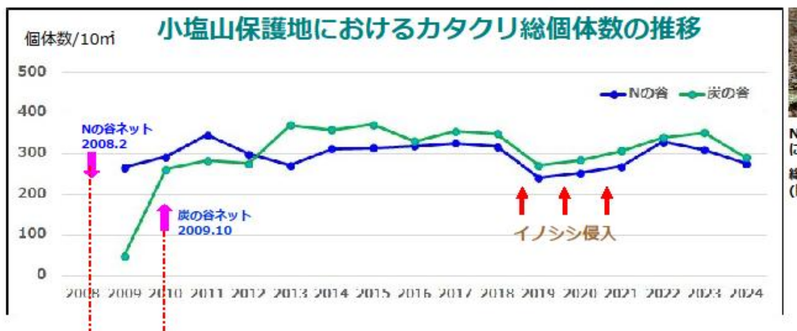
↓4月一般公開

花ボランティア学校--保護地公開に先立ち、勉強会を実施

　カタクリ保護地で説明や誘導を担当するのが“花ボランティア”です。
　2024年3月30日からの保護地公開を前に、3月17日に花ボランティア学校を開催しました。ベテラン・新人計56名が参加して、山の手入れの基本方針からカタクリ、ギフチョウの基礎知識、最新情報までを熱心に勉強しました。

集合した56名。うち半数以上が入会1，2年の皆さん

西山自然保護ネットワーク・取り組みの成果



Nの谷100㎡、炭の谷60㎡の調査区画にて、毎年開花期にカウント

総個体数＝実生数+1枚葉株数+2枚葉(開花)株数

ギフチョウ最盛期に、小塩山山頂付近6か所で調査。10分間観察し、視認した頭数を記録、集計

防獣ネット設置
Nの谷＞2008.2
炭の谷＞2009.10
御陵の谷＞2010.10
鏡の谷＞2011.10/2014.10
池の谷(市有林)＞2012.3/2024.10